

情報連絡員の報告からみた“都内中小企業の景況”

～14年ぶりに製造業の「業界の景況」DI値プラスへ～
(平成16年2月～7月期)

- 東京都中央会 -

東京都中小企業団体中央会は9月15日、東京都中小企業会館で平成16年度第1回目の「中小企業団体情報連絡員報告会」を開催した。報告会での議題である「情報連絡票のまとめ」によると、今期(平成16年2月～7月)の都内中小企業の景況を情報連絡員の報告から見ると、半年間の期間平均の数値は、ほぼ全ての項目で前期に比べ改善している。特筆すべきことは、7月に製造業の「業界の景況」DI値(前年同月比)が14年ぶりにプラスに転じたことである。内容は、「好転」が15人、「悪化」が12人で、他の38人は「不変」であるから油断はできない。非製造業の「業界の景況」DI値は未だにマイナスであることも不安材料だが、若干の光明が見えてきたことは間違いないようだ。前期、水面付近で浮沈を繰り返した製造業の「売上高」は、今期はとおしてプラスの値であった。「情報連絡票のまとめ」の概要は次のとおり。

情報連絡票のまとめ

[平成16年2月～平成16年7月](製造業65名、非製造業85名、計150名)

特記事項及び要望事項

【主な特記事項】

米国BSE、鳥インフルエンザの影響深刻
家電量販店の消費税の総額表示対応は、従来価格のまま総額表示にしたり、ポイントを積み増ししたり、中小電気店を圧迫
オリンピックイヤーに期待する業界多数

14年ぶりに製造業の「業界の景況」DI値がプラスへ

【主要要望事項】

食の安全に対するPRを

パートタイマーに対する厚生年金適用に反対

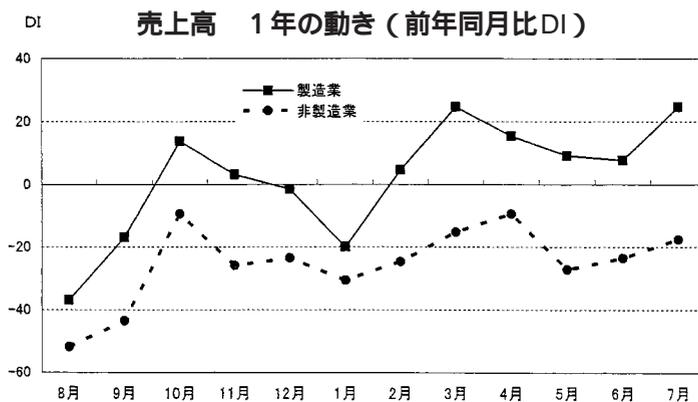
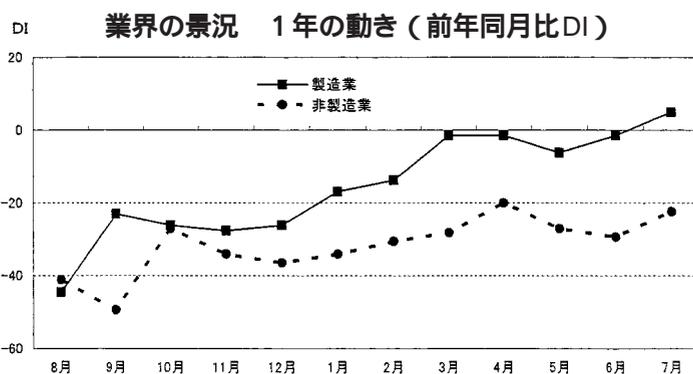
廃工場の跡地利用が土壌汚染問題で困難になっているので救済措置を要望する

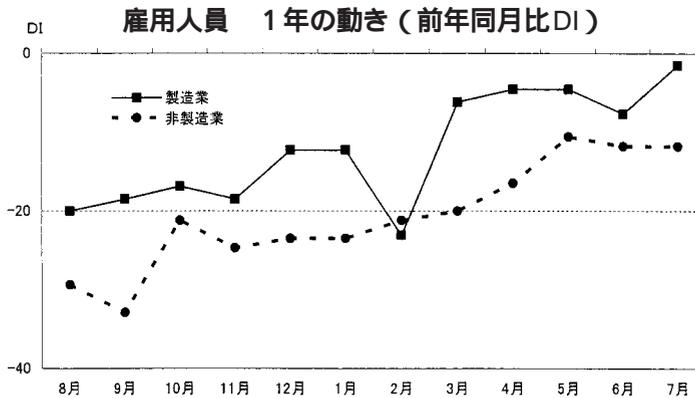
今期の総合的な動き

	業界の景況DI		売上高DI		収益状況DI	
	前期	今期	前期	今期	前期	今期
製造	-27.5 ↗	-3.3	-9.8 ↗	14.4	-27.2 ↗	-8.7
非製造	-37.1 →	-26.3	-30.8 →	-19.6	-42.4 →	-31.2

(前年同月比のDI値を6カ月平均したもの。)

(注) 数値はDI値。DIとは、ディフュージョン・インデックスの略で、前期又は前年同期に比べ「増加」・「上昇」・「好転」したとする割合から「減少」・「低下」・「悪化」したとする割合を差引いた値である。





各月の特記事項及び動き

- 2月 「米国BSE、鳥インフルエンザ発生で食肉全般の売上げ不振」(食肉市場卸)
「鳥インフルエンザの影響があると思ったが、あまりなかったようだ」(鮮魚小売)
12日 03年の日本の経常黒字は15兆7,853億円で過去最大と財務省が発表
- 3月 「目前に迫った消費税『総額表示』の対応に苦慮」(多業界)
5日 2月末の外貨準備高が過去最高の7,768億5,700万ドルになったと財務省が発表
- 4月 「BSE問題で米国牛の輸入が止まった」(食肉業務用卸)、「パートタイマーに対する厚生年金適用拡大に反対」(弁当製造)
1日 消費税「総額表示方式」がスタート
- 5月 「Mトラックメーカーのトラブルの影響、様々」(自動車部品加工)、「大量もの、納期に余裕のあるものは中国へ移り、国内は少量多品種、短納期となり、型の取換えに追われ売上げが伸びない」(プラスチック製品製造)
- 6月 「東京都中央会の活路開拓調査・実現化事業を実施し、若手組合員が奮起『業界の明日を考える会』が立ち上がった」(理容業)、「『日本橋問屋街まちづくり協議会』発足、昔からの街並み維持のためディベロッパーと協議していくことになった」(日本橋問屋街)
10日 厚生労働省が03年の合計特殊出生率が1.29で過去最低と発表
- 7月 「7月に入って浴衣の注文が殺到、近年の浴衣ブームで専門店、百貨店が参入してきたためのようだ」「猛暑で清涼飲料、帽子、製氷等の業界が好調」(関係業界)